

本部

「JA役員との意見交換会」

10月30日、『ホテル・ザ・ノット横浜』にてJA役員との意見交換会が開催されました。昨年度までは新型コロナウイルスの影響で人数制限などの感染症対策をしながらの開催となっていたのですが、今年度からは以前のような様式での開催となりました。

「各支部で抱えている課題を踏まえ、JA横浜青壮年部の10年先、20年先を見据えた建設的な意見を出して欲しい」という永島部長の挨拶からスタート。参加された部員からは鳥獣被害の状況把握や効果的な対策の要請や、職員による後継者世代に対する部会加入呼びかけなど、青壮年部活動の活性化や農業の現場で起きていることに対する様々な意見や要望が出ました。

JA役員の皆様には部員からの強い気持ちを真摯に聞いていただきました。お互いが納得する意見交換もありましたが、中にはまだ解決していない問題もいくつかあります。

これからのJA横浜と青壮年部を更に良いものにしていくために、お互いが意見を出し合う、このような意見交換会はこれからも必要だと思いました。

柳下代表理事組合長をはじめ、参加していただいた役員の皆様、お忙しい中ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



みんなが **WAPPY!**
やる **JA** の **横浜!**

豊田

「晴れ男は誰だ!？」

12月6日、農業まつりがありました。週間天気予報では雨でしたが、近づくにつれ徐々に予報が上向きになり当日は12月とは思えないほどの気温になりました。青壮年部は綿菓子とポップコーンを製造販売しました。晴天がお客さんを呼んだようで正午にはポップコーンが売り切れ、綿菓子も大人気でとても充実した農業まつりになりました。

矢島寛理事・佐々木裕支店長をはじめ組合員の皆様、消防団の操法大会の為に開催日の変更を承認して頂きありがとうございました。



みんなが **WAPPY!**
やる **JA** の **横浜!**

和泉

「今回も惜敗。」

今年のソフトボール関東甲信越大会の会場は栃木県宇都宮市でした。

10月5日昼過ぎからバスで和泉支店を出発。16時頃には宿泊先のホテルに到着し、夜の決起宴会まで時間があつたので名物の宇都宮餃子を食べに行きました。宇都宮餃子のお店は閉店時間が早い為に宴会後では間に合わないということで、自家用車で後から来た部員さんは食べられませんでした。平日にも関わらず店外にまで列ができるほど大盛況で、おいしい餃子に大満足でした。

決起宴会では明日の試合の勝利を誓い、10月6日早朝にホテルを出発して試合会場へと向かいました。

鬼怒川の河川敷にある『柳田緑地』という会場で、駐車場からは少し距離がありましたが、快晴でソフトボール日和となりました。

開会式では恒例のお土産交換を実施。神奈川県代表の和泉支部は横浜の銘菓ハーバーを用意しました。大会に参加した7チームの代表が輪になってお土産を回して、ストップした時に手にしていたお土産を頂くことになりました。和泉支店は群馬県伊勢崎市の「緋(かすり)の里うどん」という乾麺を頂き、参加した部員のみんなで分け合いました。

群馬県のお土産を頂きましたが、試合は埼玉代表と対戦となり、参加部員15名で挑んだ結果は12-10で惜しくも初戦敗退…和泉支部の理事に寄贈して頂いたバットでホームラン2本を含む大量得点を奪ったのですが、相手も野球経験者が多くそつのない走塁技術に守備のミスもあり、打ち勝つことができませんでした。前回大会に引き続き悔しい負け方でしたが、次こそ1勝！という思いで来年も市大会から頑張りましょう。参加した部員の皆様、大変お疲れ様でした。

みんなが♡HAPPY!
やるJAの横浜!



新田

「横浜から農業と教育の未来を!!」

12月6日『千葉市文化センター アートホール』にて開催された令和5年度JA青年部幹部研修会へ参加しました。

新田支部から長澤佑典部員が青年の主張 神奈川県代表として発表しました。テーマは、かながわFARM21発表会と同じく「地産地消！そして、農業教育を次世代の仲間のために」でした。関東甲信越大会ということもあり、各地域で力をつけてきた方々が集まりました。長澤部員も前回の発表よりも更に良いものにするべく練習を重ねてきました。

そして迎えた当日の会場は非常に緊張感がありました。新田支部は一致団結して、横浜の法被を着て横断幕を掲げ応援しました。

結果は優秀賞で残念ながら全国大会進出にはなりませんでしたが、今までの発表してきた中でも最高の発表でした。小山理事、新田・新羽両支店長、職員の皆様、永島部長をはじめとした本部の皆様、他支部の皆様、今回応援していただいた全ての皆様のご協力のおかげで大変盛り上がりました。新田支部としても今回の経験はかけがえのないものとなりました。

長澤部員、発表お疲れ様でした。そして次世代の農業のために更なる飛躍する事を願っております。

